

地域経済レポート

日本全国、世界の 医療業界へ羽ばたく バイオベンチャー

株式会社久留米リサーチ・パーク
Gmep株式会社

企業の研究開発や、ベンチャービジネス支援などを手がける（株）久留米リサーチ・パーク（福岡県久留米市、KRP）が運営する施設からは、株式公開を果たした企業のほか、大手企業とライセンス契約を結んだバイオベンチャー企業などが誕生している。そして現在もまた、新たなビジネスが生まれようとしている。

バイオ分野を中心としたベンチャー企業の研究・開発を支援

KRPは、福岡県や久留米市を中心とする官民からの出資により設立された第三セクターだ。県南エリアにおけるインキュベータとして、専門人材を配置した中小企業の研究開発支援をはじめ、低料金での研究開発スペース提供、国などによる助成金情報の提供、人材の育成・交流などを手がけている。

バイオテクノロジーを核とした新産業・バイオベンチャー企業の創出や、関連企業・研究機関の一大集積拠点（バイオクラスター）形成を目指して2001年にスタートした「福岡バイオバレープロジェクト」では中心的な役割を担った。2004年に研究開発支援施設として「福岡バイオインキュベーションセンター（通称：F-BIC）」を、2007年には製品製造支援施設として「福岡バイオファクトリー（通称：F-BF）」をそれぞれオープンしている。

KRPに研究施設を開設していた（株）ジーエヌアイ（東京、現：（株）ジーエヌアイグループ）は2007年8月に東証マザーズへ上場。また、現在F-BFに入居する核酸医薬の研究開発を手がける（株）ボナックは、独自の開発技術の特許を日米欧で取得し、大手企業とライセンス契約を結ぶほか、地銀やファンドからの出資を受けるなど、バイオ医薬の分野で活躍する企業が続々と登場している。

Gmepが画期的な細胞培地を開発

現在、F-BICに入居するGmep（株）は2016年8月に設立。哺乳動物細胞の無血清培地や培養試薬

の研究開発・製造・販売、顧客の無血清培養をサポートするサービスを提供している。

従来、細胞を培養するには血清、特にウシ胎児血清が多く利用されてきた。しかし、細胞を増殖させたり、遺伝子を組換えたりするバイオ医薬品や創薬分野、再生医療分野では、血清を使わず、かつ、病気誘発リスクのある動植物由来成分を含まない無血清培地の重要性が増している。

Gmepは、バイオ医薬品・創薬において利用されるCHO細胞やHEK293細胞に対して、細胞増殖効果を高めつつ、効率よく遺伝子導入を行い、組換えタンパク質生産を可能にする培養液の研究に基づき開発した完全合成培地を製品化。実用的でリーズナブルな価格設定を実現し、昨年12月に販売を開始した。

また、ハイブリドーマやミエローマ、正常ヒト線維芽細胞の培養を支援する完全合成培地も製品化しており、モノクローナル抗体や組換えワクチンの生産や再生医療分野にも対応している。このように、最新の細胞培養技術を活用したさまざまな商品・サービスの展開が期待されている。KRP入居の“先輩”たちに続く飛躍を遂げるか、注目したい一社だ。

会社概要

商号	株式会社久留米リサーチ・パーク
企業コード	820104908
本社所在地	福岡県久留米市百年公園1-1
代表	齊藤 哲夫氏
資本金	15億7785万円
電話	0942-37-6111
設立	1987年12月
事業内容	貸事務所業、研究開発・企業育成支援事業ほか
URL	http://www.krp.ktarn.or.jp/

◆Gmep（株）の企業概要◆

本社所在地	福岡県久留米市百年公園1-1
代表	楠本 賢一氏
電話	0942-65-4463
URL	http://gmep.co.jp/